

■ 成人発達障害支援学会 News Letter の概要紹介 ■

会長 河口 央商

成人発達障害支援学会の前身である研究会は平成25年(2013年)に発足し、年次大会が毎年開催されてきました。これは我が烏山東風の会発足と同時期に該当します。その研究会が2018年から学会に発展解消されると同時に東風の会も団体加入しました。学会発足の背景について学会代表加藤進昌先生がニューズレター(No.2, 2019.7.7)に執筆され、その意義を力説されていますので全文をご紹介します。



『会員の皆さまには発達障害支援にいつもご尽力のことと存じます。

本学会も研究会時代を加えて7年目になりました。学会化が必要だと考えたのは、直接的にはショートケアプログラムが診療報酬加算の対象になったことでした。昨今の医療費削減の嵐の中で、加算を獲得したのは画期的なことだと喜んだのですが、一方で税金を使うからには効果の検証と質の担保が必須であり、それを担うには学会として責任を持たなければいけないだろうと考えた次第です。幸いに賛同してくださる施設も増えつつあります。施設や地域の事情に合わせたプログラムも開発されつつあります。相互に検証することで支援手法の精緻化が実現し、より広い対象に適用されていく好循環になっていくことを願っています。研究会時代には東京で固定していましたが、去年は札幌、今年は名古屋と移動して、それぞれの関心を全国化していく道のりもできつつあるように思います。

発達障害は急速に関心が高くなったこともあり、過剰診断が問題になっています。この点を学問的に掘り下げることも重要ですが、ややもすると、机上の空論になってしまう恐れがあると懸念しています。多くの観察眼があるデイケアの場は、診断の精度を無理なくアップしてくれる大きな武器になるのではないのでしょうか。

本学会は、医療職すべてがチームとして連携することで目的を達成しようとするところに主眼があります。デイケアはグループで実施するものですから、メンバーである当事者の果たす役割も大きいはずで、集団のダイナミクスが治療効果の源泉です。それは同時に、この学会の活力の源泉にもなるはずだと信じます。会員皆さまの力を結集して、発達障害支援の流れを確かなものにしていきたいと思います。』



なお、ニューズレター(No.2)には、次の記事が掲載されています。

1. 第6回年次大会(札幌)を終えて
2. 全国に成人発達障害診療専門拠点機関を
3. さらなる発達障害専門プログラムの普及・発展を目指して



それぞれについて、簡潔にご紹介します。



1. について：省略します。

2. について：厚生労働省科学研究費補助金支給対象に採択された研究「発達障害診療専門拠点機関の機能の整備と安定的な運営ガイドラインの作成のための研究」(昭和大学発達障害医療研究所)の一環として行われた調査についての報告



発達障害診療専門拠点機関に望まれる機能、支援の現状・ニーズについて、全国の医療機関、精神保健福祉センター、発達障害支援センターを対象に調査をしています。発達障害診療拠点機関とは、「成人発達障害支援に関して標準的な専門医療を提供できる機関」であり、認知症や依存症に関しては拠点機関を中心とした支援体系がすでに構築されており、発達障害支援についても支援体系作りが目指されています。

調査の結果、外来治療機能では「専門的なデイケア機能」「家族支援機能」が拠点機関に必要な機能としてニーズが高く、実現のためには「人材育成・教育機会」特に臨床場面での教育が求められていることが判明しました。

入院治療機能では、成人だけでなく児童期を含めた支援体制が求められ、児童・思春期からのキャリアオーバー、引き籠りなど円滑な医療との連携が求められていることが示されました。

研究ではこれらの調査結果をもとに、発達障害診療拠点機関のガイドラインの作成がすすめられています。



3. について：2018年診療報酬改定により、発達障害専門プログラムが診療報酬化(ショートケア加算)されました。これは発達障害専門プログラムの効果が認められたことを意味し、全国の医療機関で成人発達障害支援の広がりが期待される画期的な改定でした。一方で対象となるのが40歳未満の参加者であったり、回数制限があったりと課題の多さに対する課題があるように感じています。

この診療報酬化されたプログラムの認知度を全国の医療機関、学会加入機関を対象に昭和大学発達障害医療研究所が調査を行っています。行った「発達障害専門プログラム実施(または予定)機関に対する3項目の調査」結果は次のとおりでした。

①ショートケア加算の認知度(全数234件)

イ) 知っている38% ロ) 聞いたことがある32% ハ) 知らない30%

②プログラム内容の認知度(全数235件)

イ) 知っている20% ロ) 聞いたことがある39% ハ) 知らない41%

③プログラムの実施予定(全数232件)

イ) 実施予定あり24% ロ) 実施予定なし76%

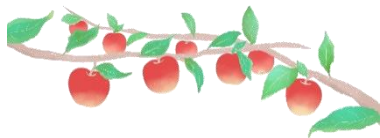


先駆的に発達障害専門プログラムを実施している11医療機関に対して行った同様の調査結果は次のとおりでした。

④2018年度のプログラム参加者400名のうち、加算対象にならない40歳以上の参加者は102名(26%)であり、加算を算定しているのは3機関のみ。

これらの調査結果は、発達障害支援において薬物治療は限局的であり発達障害専門プログラムに高い期待が寄せられる一方で、なかなか普及しにくいことを具現しています。今後も調査を継続し効果的な支援の普及に努めます。学会では定期的に発達障害専門プログラム研修会が実施されているようです。





■ 通ってきた道 ■



我が家は娘二人と息子、私たち夫婦の五大家族です。小さい頃はお使いに行っても母親から離れてしまい、お母さんがいなくなったの・・・と店員さんに私の方が探されたり、お隣さんから声をかけられても不愛想で自閉症？と聞かれたりしました。

小学校の先生は「学年のカラーが軽少短薄と言われているのにお子さんは重厚長大ですね」中学でも「一つのことをじっくりやるので研究職とか職人タイプ」と言われ、口数は少ないのですが、家でも学校でもやや大人びたしっかり者のお姉さんの存在で、後に問題が起きようとは夢にも思いませんでした。



事件が起きたのは中学三年の六月です。学校から呼び出しがあり、四月のクラス替えで友達になった子と二人、鍵のかかった屋上に登ってしまい近所から通報されたとの事。それが始まりで度々呼び出され、主事さんからは「二人共純粋な良い子達だからお母さん頑張るね」と励まされました。

夏休みには二人で家出～捜索願。警察では「中三デビューは進路にかかわるから一番悪いんだよ。思春期は同化と言って一緒に行動するから危ない」と注意されました。

友達は母子家庭で進路で揉め、虐待もあり助けたかったようです。元来言葉少なく相談や説明、会話が得手でない娘は常に離れず一緒に行動をしていました。小五で転校してきた近所の同級生が女子全員から無視された時も、同じ様に離れず護ったそうです。

二学期からは完全不登校となり、受験は二次募集で都立普通科に合格。一学期の終り頃行けなくなり後にそのまま退学しました。先生は「入試の国語は満点でした。これだけの成績を取る子がこうなるのは非常に珍しい、惜しい」と電話をくださいました。



それからの十代後半～二十代は何をしても続かず引きこもりや対人の少ない日雇い派遣で、家の中では物に当たったり、毎日通販が届いたりとは喧嘩が絶えませんでした。

転機は、警察の生活相談で事情を話すと「俺が連れて行ってやるよ」と力添え下さり精神科を受診。広汎性発達障害が疑われるから専門病院へ行きなさいと言われました。娘はすぐに調べて、私の携帯と二台使い、昭和医大外来にかけ続けて初診予約が取れたそうです。その時初めて診断がつかしました。通院は当日の朝行けなくなる事が多かったですが、昔保健所への相談で病名・病院が決まったら絶対切らないで、お母さんだけでも通い続けなさいと助言されていたのでそれを守るようにしました。

先生からグループホームで三年位訓練するのが一番良いでしょうと方針をいただき、娘との相性もあり保健師さんと娘のホーム探しが始まりました。初回だけ私も同行、管理人さんご自身の体験から社会保険労務士さんや障害年金のお話を伺いました。

年金申請では、発達障害は初診証明が重要だそうで、受診・転院が多く追跡調査は困難でした。最初のクリニックは閉院していましたが社労士の先生が、カルテを引き継いだ医師がいることを突き止め、初診日が確定し認定されました。



娘への対応で反省することもたくさんありましたが、女子会参加で心が軽くなり講演会で対応を学び今日があります。

娘も現在グループホームで、昨年暮れ頃から帰る度に「私はお金の使い方に問題がある」「言葉で失敗する」と気づき話せるようになりました。最近では「グループホームに入れて良かった」と喜んでいきます。

親子ともども希望を胸に学び続けて行こうと思います！！（M.T）





■ 年会費振込のお願い ■

この会報誌は「烏山東風の会」に入会している方にお配りしています。10月より下半期になりますので、下半期の会費をまだお支払いになっておられない方は、半年分3000円を、以下のいずれかの銀行口座にお振り込みいただくようお願い申し上げます。

①三菱UFJ銀行 永福町支店 (普) 0106550 「烏山東風の会 会計 黒田邦夫」

②ゆうちょ銀行 記号・番号：10000-29576521 「烏山東風の会」

なお、ご自身の会費納入実績、そのほか会費にかかわるお問い合わせなどありましたら、以下にご連絡ください。：黒田邦夫 090-4173-7604

■ 「烏山東風の会」今後のスケジュール ■

「烏山東風の会」では、新型コロナ対策対応の為、十分な活動が出来ていません。

世話人会の見学・参加、ご意見等は下記にご連絡ください

●携帯電話 080-3009-1200

●メールアドレス kochinokai@au.com

各種、お問い合わせ、ご相談もお受けしております。



「烏山東風の会」ホームページでも、情報を発信しています。

●「烏山東風の会」ホームページアドレス <https://www.kochinokai.com/>

デイケア写真館

きつと、終わりがきて外で遊べると信じたい

歳をとってからの一年は早いといいますが、気が付いたらもう10月になっていました。

もう紅葉がはじまろうとしていて、外の木々にも変化がでてきました。

振り返れば家ばかりにいた一年だったと思います。土日に出外することはあまりなく、家でゲームをしたりテレビを見たり、すっかり体力が落ちてしまいました。家ばかりいて家族との距離が掴みにくくなり、家でケンカという方も多いかと思えます。

実際、コロナ疲れが原因で私は同居する母とケンカをしてしまいました。母は趣味のサークルにも行けず暇だった時期もあり、それでストレスになってしまったのかもしれませんが。それでケンカになったのでしょう。そういう時はどうしたらいいのか私は未だに模索中です。何かいい方法を思いついた方、こんなアイデアがありますという方は周りの方にシェアをお願いいたします。(NK)



病院駐車場の木々



デイケアの窓から